

第23回

本末梢神経学会学術集会

『学際的連携がひらく末梢神経学の未来』



博多堀：戦国時代、立て続きの戦乱で廃墟となりつつあった博多の町を豊臣秀吉が復興する際、焼け石や焼け瓦を使って作った土堀。

プログラム・抄録集

会 長

吉良 潤一

九州大学大学院医学研究院 神経内科学教授

会 期

2012年8月31日(金)・9月1日(土)

会 場

九州大学医学部百年講堂

事務局

九州大学大学院医学研究院 神経内科学

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

TEL : 092-642-5340 FAX : 092-642-5352

第23回日本末梢神経学会学術集会開催にあたって

第23回日本末梢神経学会学術集会 会長 吉良 潤一

九州大学大学院医学研究院神経内科学 教授

この度、第23回日本末梢神経学会学術集会を福岡で開催できますこと、大変光栄に存じます。本学会は、末梢神経科学ならびに末梢神経疾患をめぐる、神経内科、整形外科、産業医学、そして基礎医学の立場の方が、専門領域を超えて意見交換する大変ユニークな学会です。

今回の学術集会開催にあたっては、5点新しい試みを行うことにしました。まず第1に、本学術集会では初めて集会全体のテーマを設定することにしました。集会のテーマは会を貫く一本の太い心棒のようなものです。今回は、前述の学会の成り立ちにもとづいて、集会のテーマを「学際的連携がひらく末梢神経学の未来」としました。これにあわせて、種々の学際的な取り組みを、特別講演やシンポジウムでは取り上げています。第2に、内科・外科インターフェースセッションとして、内科と外科が一堂に会して討論する一般演題のセッションを二つ設けました。一般演題が増えてきたこともあり、複数の会場で並行して発表を行わざるを得ませんが、本来は内科・外科が同一会場で意見交換するのが理想です。それを体現するセッションを設けました。第3に、若手研究者を元気づける目的で、参加全評議員の投票により選出する、最優秀口演賞（1題）、優秀口演賞（2題）、最優秀ポスター賞（1題）、優秀ポスター賞（2題）、コメディカル・レジデント部門最優秀発表賞（1題）、Best Case Presentation Award（1題）を設けました。第4に、コメディカルや研修医の参加を促し、本学会に関心をもってもらうため、日本末梢神経学会コメディカル委員会との共催でハンズオン形式のコメディカルやレジデントを対象にした教育セミナーを設けました。第5に学会翌日に、日本末梢神経学会広報委員会と共催で、「手足のしびれ」をテーマに市民公開講座を開催することにしました。本公開講座により一般市民の方々の末梢神経疾患への関心が高まることを期待しています。

企画プログラムは、招請・特別講演3題、シンポジウム2企画・7講演、ワークショップ講演1題、産業医学講座講演1題、共催セミナー講演4題、厚労省セッション講演1題の計17題になりました。一般演題の登録は、口演67題、ポスター57題、コメディカル・レジデントセッション5題の計129題に達し、過去最高となりました。多くの会員の皆様の演題発表に心より感謝申し上げます。学術集会の成否は、どれだけ多くの方がアクティブに参加してくれるかにかかっています。本学術集会が有意義なものとなり、学際的な本学会の将来の大きな発展につながるよう、多くの皆様の参加をお待ちしております。

日 程 表

2012年8月31日(金)

	第 1 会場 (大ホール)	第 2 会場 (中ホール)	交流ホール
8:00			
9:00	8:50 ~ 開会の辞 9:00 ~ 9:48 P.57 一般演題 1 「GBS/CIDP」 座長：池田 修一	9:00 ~ 9:24 一般演題 5 「糖尿病性ニューロパチーの臨床」 P.68 座長：松本 昭久 9:24 ~ 10:20 P.70 一般演題 6 「ニューロパチーの基礎研究」 座長：安田 斎	9:00 ~ 11:00
10:00	9:48 ~ 10:20 P.60 一般演題 2 「臨床病理」 座長：水澤 英洋 10:20 ~ 11:00 P.62 一般演題 3 「遺伝子ニューロパチー」 座長：高嶋 博	10:20 ~ 10:52 P.74 一般演題 7 「損傷・圧迫」 座長：根本 孝一 10:52 ~ 11:40 P.76 一般演題 8 「外科治療」 座長：池田 和夫	ポスター掲示
11:00	11:00 ~ 11:40 P.65 一般演題 4 「自律神経・アミロイドニューロパチー」 座長：安東由喜雄		11:00 ~ 15:30
12:00	11:50 ~ 12:50 P.38 ランチョンセミナー 1* 「温故知新 - ビタミン B12 と末梢神経障害 -」 演者：田中 啓之 座長：井上 聖啓 共催：エーザイ株式会社		
13:00	13:00 ~ 14:00 P.31 招請講演* 「POST-SURGICAL INFLAMMATORY NEUROPATHY」 演者：Peter James B. Dyck 座長：Jun-ichi Kira	15:30 ~ 16:20 P.94 ポスターセッション 1 「GBS/Fisher」 座長：海田 賢一 15:30 ~ 16:20 P.99 ポスターセッション 2 「CIDP・その他の脱髄性または炎症性ニューロパチー」 座長：長谷川 修 15:30 ~ 16:15 P.104 ポスターセッション 3 「その他のニューロパチー」 座長：熊本 俊秀 15:30 ~ 16:20 P.109 ポスターセッション 4 「遺伝性・中毒性ニューロパチー」 座長：馬場 正之 15:30 ~ 15:55 P.114 ポスターセッション 5 「腕神経叢・疼痛治療」 座長：額田 均 15:55 ~ 16:20 P.117 ポスターセッション 6 「病態モデル」 座長：三上 容司 15:30 ~ 16:10 P.120 ポスターセッション 7 「外科手術・腫瘍」 座長：金谷 文則 15:30 ~ 15:55 P.124 コメディカル・レジデントセッション 座長：柿木 良介	ポスター展示
14:00	14:00 ~ 15:30 P.41 シンポジウム 1* 「学際的連携がひらく末梢神経機能再建への展望」 演者：柴田 実、平田 仁、安東由喜雄 座長：越智 光夫、田島 文博		
15:00			
16:00			15:30 ~ 16:20 ポスター発表 (発表3分/質疑2分)
16:30 ~ 18:00 P.79	一般演題 9 「内科・外科インターフェースセッション-1」 (優秀口演賞候補演題発表) 座長：祖父江 元、加藤 博之		16:30 ~ 19:00
17:00			
18:00	18:00 ~ 19:00 P.40 イブニングセミナー 「多発性運動ニューロパチーの病態・疫学と治療」 演者：梶 龍児 座長：野村 恭一 共催：田辺三菱製薬株式会社/株式会社ベネシス		ポスター展示
19:00	19:30 ~ 会員懇親会	ホテル日航福岡 「都久志の間」	

※は日本整形外科学会、日本手外科学会認定単位取得セミナー

日 程 表

2012年9月1日(土)

第 1 会場 (大ホール)	第 2 会場 (中ホール)	交流ホール
8:00	8:10 ~ 8:30 評議員会	
8:30 ~ 9:30 モーニングセミナー P.37 「腕神経叢炎 ―診断・治療の最新知見―」 演者：池田 修一 座長：八木橋操六 共催：帝人ファーマ株式会社／化学及血清療法研究所		8:30 ~ 16:00
9:30 ~ 11:15 シンポジウム 2* P.44 「なぜそこが障害されるのか：末梢神経障害部位を決める分子メカニズム」 演者：楠 進、河村 信利（指定発言）、 桑原 聡、高嶋 博 座長：神田 隆、中川 正法	9:00 ~ 11:45 コメディカル・レジデント教育セミナー（生涯教育講演）* P.48 「末梢神経障害の臨床神経生理検査の基礎と実際」 コーディネーター：有村 公良 9:00 ~ 9:30 「末梢神経障害における臨床神経生理検査の役割と検査のこつ」 演者：有村 公良 9:30 ~ 10:10 「多発ニューロパチーの電気診断」 演者：小森 哲夫 10:10 ~ 10:25 休 憩 10:25 ~ 11:05 「手根管症候群の電気生理検査と結果の読み方」 演者：園生 雅弘	
11:15 ~ 11:45 産業医学講座「有害化学物質の手のふるえに及ぼす影響」 P.36 演者：村田 勝敬 座長：松岡 雅人	11:05 ~ 11:45 「その他の絞扼性ニューロパチー（肘部管症候群、橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺）」 演者：三澤 園子、桑原 聡 共催：日本光電株式会社	
12:00 11:55 ~ 12:55 ランチョンセミナー 2* P.39 「末梢神経疾患の電気診断：脱髄性ニューロパチーを中心に」 演者：園生 雅弘 座長：楠 進 共催：日本製薬株式会社		ポスター展示
13:00 13:05 ~ 13:35 総会・表彰式		
13:35 ~ 13:45 特別講演 1* P.34 「医工連携が切り開く医療の未来」 演者：岩本 幸英 座長：落合 直之	厚生労働省セッション P.53 「臨床研究活性化に関する国の取り組みと倫理指針」 演者：岡田 潔 座長：吉良 潤一	
14:45 ~ 15:45 特別講演 2* P.35 「新たに発見されたヒト生体由来の多能性幹細胞 Muse 細胞：神経再生医療への可能性」 演者：出澤 真理 座長：糸山 泰人		
16:00 15:55 ~ 16:51 一般演題 10 「神経生理・画像検査」 P.84 座長：小森 哲夫	15:55 ~ 16:51 一般演題 11 「手根管症候群・手の外科」 P.88 座長：西浦 康正	16:00 ~ 18:30
17:00 16:55 ~ 17:53 一般演題 12 ワークショップ P.92 内科・外科インターフェースセッション-2 「神経障害性疼痛を治す：現状と未来」 キーノートレクチャー：津田 誠 (P.52) 座長：葛原 茂樹、堀内 行雄		ポスター撤去
18:00 17:53 ~ 閉会の辞		
19:00		

※は日本整形外科学会、日本手外科学会認定単位取得セミナー

特別企画プログラム

2012年8月31日(金)

■ ランチョンセミナー 1

11:50~12:50 第1会場

座長：井上 聖啓（札幌山の上病院 神経内科）

「温故知新 -ビタミンB12と末梢神経障害-」

演者：田中 啓之（大阪大学医学部 整形外科学講座）

共催：エーザイ株式会社

■ 招請講演

13:00~14:00 第1会場

座長：Jun-ichi Kira（Department of Neurology, Kyushu University）

「POST-SURGICAL INFLAMMATORY NEUROPATHY」

演者：Peter James B. Dyck（Department of Neurology, Mayo Clinic）

■ シンポジウム 1 「学際的連携がひらく末梢神経機能再建への展望」

14:00~15:30 第1会場

座長：越智 光夫（広島大学大学院 整形外科）

田島 文博（和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学講座）

1. 「末梢神経修復術と神経可塑性：特に神経交叉術後、神経端側接合術後の神経可塑性について」

演者：柴田 実（新潟大学大学院 形成・再建外科）

2. 「Motoneuron integrated striated muscle (MISM) による麻痺再建」

演者：平田 仁（名古屋大学大学院医学系研究科 運動・形態外科学手の外科学）

3. 「家族性アミロイドポリニューロパチー（FAP）の病態解析の神経障害」

演者：安東由喜雄（熊本大学大学院 生命科学研究部 神経内科学分野）

■ イブニングセミナー

18:00~19:00 第1会場

座長：野村 恭一（埼玉医科大学 神経内科）

「多巣性運動ニューロパチーの病態・疫学と治療」

演者：梶 龍児（徳島大学 神経内科）

共催：田辺三菱製薬株式会社／株式会社ベネシス

2012年9月1日(土)

モーニングセミナー

8:30~9:30 第1会場

座長：池田 操六（弘前大学分子病態病理学）

「腕神経叢炎 —診断・治療の最新知見—」

演者：池田 修一（信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

共催：帝人ファーマ株式会社／一般財団法人 化学及血清療法研究所

コメディカル・レジデント教育セミナー（生涯教育講演）

9:00~11:45 第2会場

「末梢神経障害の臨床神経生理検査の基礎と実際」

コーディネーター：有村 公良（大勝病院（鹿児島大学））

1 末梢神経障害における臨床神経生理検査の役割と検査のこつ

演者：有村 公良（大勝病院（鹿児島大学））

2 多発ニューロパチーの電気診断

演者：小森 哲夫（国立病院機構 箱根病院 神経筋・難病医療センター）

3 手根管症候群の電気生理検査と結果の読み方

演者：園生 雅弘（帝京大学医学部 神経内科）

4 その他の絞扼性ニューロパチー（肘部管症候群、橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺）

演者：三澤 園子、桑原 聡（千葉大学大学院医学研究院 神経内科学）

共催：日本光電株式会社

■ シンポジウム 2 「なぜそこが障害されるのか：末梢神経障害部位を決める分子メカニズム」 9:30~11:15 第1会場

座長：神田 隆（山口大学大学院医学系研究科 神経内科学）

中川 正法（京都府立医科大学大学院 神経内科学）

1 「免疫学の視点から：ギラン・バレー症候群とフィッシャー症候群において抗ガングリオシド抗体の結合を規定する因子は何か」

演者：楠 進（近畿大学医学部 神経内科）

指定発言「Combined central and peripheral demyelination (CCPD) における抗neurofascin 抗体」

演者：河村 信利（九州大学大学院医学研究院 神経内科学・河村病院 神経内科）

2 「神経生理学の視点から：CIDPの病変分布は血液神経関門により規定される」

演者：桑原 聡（千葉大学大学院医学研究院 神経内科学）

3 「分子遺伝学の視点から：CMTの末梢神経変性はどのように起こるのか」

演者：高嶋 博（鹿児島大学 神経内科・老年病学）

■ 産業医学講座

11:15~11:45 第1会場

座長：松岡 雅人（東京女子医科大学 衛生学公衆衛生学（一））

「有害化学物質の手のふるえに及ぼす影響」

演者：村田 勝敬（秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座）

■ ランチョンセミナー 2

11:55~12:55 第1会場

座長：楠 進（近畿大学医学部 神経内科）

「末梢神経疾患の電気診断：脱髄性ニューロパチーを中心に」

演者：園生 雅弘（帝京大学医学部 神経内科）

共催：日本製薬株式会社

■ 厚生労働省セッション

13:35~13:45 第1会場

座長：吉良 潤一（九州大学大学院医学研究院 神経内科学）

「臨床研究活性化に関する国の取り組みと倫理指針」

演者：岡田 潔（厚生労働省医政局研究開発振興課）

■ 特別講演 1

13:45~14:45 第1会場

座長：落合 直之（キッコーマン総合病院）

「医工連携が切り開く医療の未来」

演者：岩本 幸英（九州大学大学院医学研究院 整形外科）

■ 特別講演 2

14:45~15:45 第1会場

座長：糸山 泰人（独立行政法人国立精神・神経医療研究センター）

「新たに発見されたヒト生体由来の多能性幹細胞 Muse細胞：神経再生医療への可能性」

演者：出澤 真理（東北大学大学院医学系研究科 細胞組織学分野・人体構造学分野）

2012年9月2日(日)

市民公開講座 テーマ：「手足のしびれ」

13:00~16:00

会 場：西鉄ホール（福岡市中央区天神 2-11-3 ソラリアステージビル 6 階）

参加費：無料

後 援：日本末梢神経学会 九州大学大学院医学研究院神経内科学

共 催：エーザイ株式会社

司会：三上 容司 日本末梢神経学会広報委員長（横浜労災病院整形外科）

開会あいさつ

吉良 潤一 第 23 回学術集会会長（九州大学大学院医学研究院 神経内科学）

市民公開講座開催の趣旨

祖父江 元 日本末梢神経学会理事長（名古屋大学医学部 大学院医学系研究科 神経内科学）

講演 1 しびれとはなにか

講師：桑原 聡（千葉大学大学院医学研究院 神経内科学）

講演 2 手のしびれ

講師：金谷 文則（琉球大学大学院医学研究科 整形外科学講座）

講演 3 足のしびれ

講師：神田 隆（山口大学大学院医学系研究科 神経内科学）

質疑応答

閉会あいさつ

吉良 潤一 第 23 回学術集会会長（九州大学大学院医学研究院 神経内科学）

一般演題プログラム

2012年8月31日(金)

■ 一般演題 1「GBS/CIDP」

9:00~9:48 第1会場

座長：池田 修一（信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

01. Fisher症候群は免疫療法の適応となりえるか？：初診時の診断からみた検討
演者：古賀 道明（山口大学大学院 医学系研究科 神経内科学）
02. 抗ガングリオシド抗体陽性ギラン・バレー症候群およびフィッシャー症候群患者の抗ガングリオシド抗体IgGサブクラスと補体活性化能
演者：汐崎 祐（防衛医科大学校 内科3 神経内科）
03. 典型的CIDPと非典型的CIDPの横隔神経M波の検討
演者：成川 真也（埼玉医科大学総合医療センター 神経内科）
04. CIDPにおける無髄線維に関連したSchwann細胞の形態の検討
演者：小池 春樹（名古屋大学 神経内科）
05. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎に対するシクロスポリンAの至適容量設定に関するトラフ値、血中濃度下面積測定の有用性
演者：廣谷 真（北海道大学医学研究科神経内科学）
06. 高度の神経肥厚を特徴とする慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチーの検討
演者：飯島 正博（名古屋大学 神経内科）

■ 一般演題 2「臨床病理」

9:48~10:20 第1会場

座長：水澤 英洋（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学（神経内科学）分野）

07. 11年の経過中MADSAMから運動ニューロン病の病像に推移した一剖検例
演者：赤石 哲也（東北大学 医学部 神経内科）
08. 抗Myelin-Associated-Glycoprotein (MAG) 抗体陽性 IgM-MGUSニューロパチーにおける重症度と治療効果に影響する因子
演者：川頭 祐一（名古屋大学 医学部 神経内科）
09. 抗myelin associated glycoprotein抗体関連ニューロパチーの1剖検例
演者：寒川 真（近畿大学 医学部 神経内科）
10. 悪性リンパ腫に関連したニューロパチーの臨床病理および治療予後の検討
演者：富田 稔（名古屋大学 神経内科）

一般演題 3「遺伝子ニューロパチー」

10:20~11:00 第1会場

座長：高嶋 博（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経内科・老年病学）

11. 遺伝性ニューロパチーの臨床的、遺伝学的研究：自験例55例の検討
演者：中川 正法（京都府立医科大学 大学院 神経内科学）
12. マイクロアレイDNAチップを用いたCharcot-Marie-Tooth病の包括的遺伝子診断
演者：橋口 昭大（鹿児島大学 医学部 神経内科）
13. CMT1A患者に対するアスコルビン酸治療の効果：軸索興奮性測定による治療前後評価を中心に
演者：能登 祐一（京都府立医科大学大学院 医学研究科 神経内科学）
14. シャルコー・マリー・トゥース病患者の筋疲労回復時間からの休憩時間の設定
演者：宮口 琢磨（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科）
15. シャルコー・マリー・トゥース病患者の筋疲労特性に関する筋電図学的検討
演者：下井 俊典（国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科）

一般演題 4「自律神経・アミロイドニューロパチー」

11:00~11:40 第1会場

座長：安東由喜雄（熊本大学大学院生命科学研究部 神経内科学）

16. Pure autonomic neuropathyの臨床病理学的特徴
演者：小池 春樹（名古屋大学 神経内科）
17. 家族性アミロイドポリニューロパチーの感覚障害発症機序の研究：後根神経節障害について
演者：村上 龍文（川崎医科大学 神経内科）
18. 家族性アミロイドポリニューロパチーにおける臨床症候に対する肝移植の長期的効果の検討
演者：山下 太郎（熊本大学 大学院生命科学研究部 神経内科学分野）
19. 家族性アミロイドポリニューロパチーにおける肝移植後の末梢神経障害の進行に対する加齢の影響
演者：小池 春樹（名古屋大学 神経内科）
20. 家族性アミロイドポリニューロパチー（FAP）に対する肝移植50例のまとめ
演者：池田 修一（信州大学 医学部 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

一般演題 5「糖尿病性ニューロパチーの臨床」

9:00~9:24 第2会場

座長：松本 昭久（溪仁会定山溪病院神経難病センター）

21. 糖尿病神経障害評価に用いる運動症候
演者：長谷川 修（横浜市立大学 附属市民総合医療センター 総合診療科）

22. 動脈壁スティッフネスは糖尿病多発神経障害と関連する

演者：中谷 宗幹（和歌山県立医科大学内科学第一講座）

23. 糖尿病における手根管病変の神経超音波所見：高血糖は軸索浮腫を増強する

演者：三澤 園子（千葉大学大学院医学研究院 神経内科学）

■ 一般演題 6「ニューロパチーの基礎研究」

9:24~10:20 第2会場

座長：安田 斎（滋賀医科大学医学部看護学科公衆衛生看護学講座）

24. Nerve microangiopathy in SHR

演者：額田 均（公益財団法人 額田医学生物学研究所、オタゴ大学医学部内科）

25. グルコサミンによるマウスシュワン細胞株IMS32への影響～糖尿病性神経障害の新しい発症機序の探索～

演者：水上 浩哉（弘前大学大学院 医学研究科 分子病態病理学講座）

26. Inactivation of TNF α Ameliorates Diabetic Neuropathy in Mice

演者：山川 勇（滋賀医科大学 医学部 神経内科）

27. ラット坐骨神経損傷に対するTNF α 阻害薬の神経再生および疼痛への効果

演者：岩月 克之（名古屋大学 医学部 手の外科）

28. 自然発症2型糖尿病モデルGKラット末梢神経障害に対するDPP-IV阻害薬効果

演者：坪井堅太郎（弘前大学 大学院 医学研究科 分子病態病理学講座）

29. 糖尿病性神経障害におけるRho kinase阻害薬の治療効果

演者：金澤 康（東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科）

30. 脂肪組織由来幹細胞の神経分化誘導は末梢神経再生治療に有用かー培養下での基礎的検討

演者：素輪 善弘（京都府立医科大学 形成外科）

■ 一般演題 7「損傷・圧迫」

10:20~10:52 第2会場

座長：根本 孝一（防衛医科大学校整形外科）

31. 青壮年期における末梢神経外傷・障害に関する疫学的検討

演者：伊藤 雄也（防衛医科大学校 整形外科学講座）

32. 当院における外来採血時の末梢神経損傷

演者：山本 真一（横浜労災病院 整形外科）

33. 肩関節脱臼整復操作で生じた上肢麻痺

演者：馬場 正之（青森県立中央病院 神経内科）

34. 橈骨神経睡眠圧迫麻痺の回復時期は予測できるか？

演者：原 由紀則（都立広尾病院 整形外科）

一般演題 8「外科治療」

10:52~11:40 第2会場

座長：池田 和夫（金沢医療センター 整形外科）

35. 肘部管症候群術後に頑固な肘の疼痛と前腕以下尺側のしびれを訴えていた3例
 演者：西浦 康正（筑波大学附属病院 土浦市地域臨床教育ステーション 整形外科、霞ヶ浦医療センター 整形外科）
36. 肘部管症候群に対する尺骨神経皮下前方移動術の術後成績
 演者：岡田 正人（金沢医科大学 医学部 整形外科学）
37. 骨化巣を含んだ神経鞘腫の1例
 演者：池田 和夫（金沢医療センター 整形外科）
38. 発症17年後に神経束間剥離術を施行した特発性後骨間神経麻痺の1例
 演者：越智 健介（川崎市立川崎病院 整形外科、東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター）
39. 下位運動ニューロン障害による麻痺足に対する再建術の検討
 演者：児玉 成人（滋賀医科大学 整形外科）
40. 副神経麻痺に対する治療の検討
 演者：廣村健太郎（金沢医科大学 整形外科）

■ 一般演題 9「内科・外科インターフェースセッション-1」（優秀口演賞候補演題発表） 16:30~18:00 第1会場

座長：祖父江 元（名古屋大学医学部・大学院医学系研究科神経内科学）

加藤 博之（信州大学 整形外科）

41. GDNFによるDRGニューロンの神経突起伸長促進ならびにガレクチン-1の発現誘導
 演者：三五 一憲（東京都医学総合研究所 末梢神経病態研究室）
42. 複合性局所疼痛症候群における難治性疼痛及び関節拘縮発生要因についての検討
 演者：太田 英之（名古屋大学 大学院 医学系研究科 機能構築医学専攻 運動・形態外科学講座 手の外科学）
43. ラット坐骨神経を用いた放射線誘発性末梢神経障害の検討
 演者：井上裕佳子（広島大学 大学院 整形外科）
44. 特発性後骨間神経麻痺の予後予測因子ならびに治療方針
 演者：越智 健介（川崎市立川崎病院 整形外科、東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 整形外科）
45. 脳病巣が原因と考えられた偽性前骨間神経、後骨間神経麻痺症例の検討
 演者：成澤 弘子（（財）新潟手の外科研究所）
46. Crow-Fukase症候群におけるランビエ絞輪部Naチャンネル異常
 演者：橋本 里奈（名古屋大学 医学部 神経内科）
47. 多巣性運動ニューロパチー血清による血液神経関門破綻メカニズムの解析
 演者：清水 文崇（山口大学大学院 医学系研究科 神経内科）

48. Autoimmune autonomic neuropathy/autoimmune autonomic ganglionopathyにおける抗ganglionicアセチルコリン受容体抗体測定の確立

演者：中根 俊成（長崎川棚医療センター 臨床研究部、長崎川棚医療センター 神経内科）

49. AARSの遺伝子変異は distal Hereditary Motor Neuropathyの原因である

演者：橋口 昭大（鹿児島大学 医学部 神経内科）

50. FOSMNIはTDP43陽性封入体が出現するが免疫療法が有効：自験3症例の臨床病理学的検討

演者：岩永 育貴（九州大学大学院医学研究院神経内科学）

2012年9月1日(土)

一般演題10「神経生理・画像検査」

15:55~16:51 第1会場

座長：小森 哲夫（国立病院機構 箱根病院 神経筋・難病医療センター）

51. 神経伝導検査所見の男女差

演者：長谷川 修（横浜市立大学 附属市民総合医療センター 総合診療科）

52. Miller-Fisher症候群におけるH反射

演者：前田 憲吾（国立病院機構 滋賀病院 神経内科）

53. C線維の機能評価にAδ特異的痛覚閾値検査を組み合わせた小径線維ニューロパチーの早期診断法

演者：大林 光念（熊本大学医学部附属病院 中央検査部 アミロイドーシス診療体制構築事業）

54. 健常者における局所冷却中の筋交感神経活動と局所血流

演者：石田 和也（和歌山県立医科大学 リハビリテーション科）

55. 肘部管症候群患者における尺骨神経MRI横断像の面積と形態

演者：寺山 恭史（東京女子医科大学 整形外科）

56. 画像処理による末梢神経軸索の自動検出

演者：山口 健太（東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科）

57. 神経伝導検査講習会を行ってきて

演者：長谷川 修（横浜市立大学 附属市民総合医療センター 総合診療科）

一般演題11「手根管症候群・手の外科」

15:55~16:51 第2会場

座長：西浦 康正（筑波大学土浦市地域臨床教育ステーション）

58. 手根管症候群で発症した関節リウマチの検討

演者：福士 純一（九州大学 医学部 整形外科）

59. 石灰沈着によって手根管症候群を生じた2例

演者：織田 悠吾（金沢医科大学 整形外科）

60. しびれ感を自覚しない手根管症候群の臨床像と手術成績

演者：吉田 綾（取手北相馬保健医療センター医師会病院 整形外科）

61. 手根管症候群重症例における術中電気生理学的検査を用いた神経上膜切離の効果の検討（第一報）

演者：岡田 充弘（大阪市立大学医学研究科 整形外科科学教室）

62. 手根管開放術前後の正中神経の動態変化

演者：中林 昭裕（広島大学病院整形外科）

63. 重度手根管症候群に対する橈側の横手根靱帯にブーリーを作製したCamitz変法：
母指回内に与える影響について

演者：加藤 直樹（埼玉医科大学 総合医療センター 整形外科）

64. 頸髄症術後遺残麻痺手の2例

演者：森澤 妥（独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 整形外科）

■ 一般演題12 ワークショップ 内科・外科インターフェースセッション-2 16:55~17:53 第1会場

「神経障害性疼痛を治す：現状と未来」

座長：葛原 茂樹（鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科）

堀内 行雄（川崎市立川崎病院整形外科）

キーノートレクチャー

「Neuropathic pain：新たな病態解明と画期的新薬の開発をめざして」

演者：津田 誠（九州大学大学院薬学研究院 薬理学分野）

65. 上肢慢性疼痛患者におけるプレガバリンの効果 ―患者立脚型上肢機能評価票Hand20を用いて―

演者：倉橋 俊和（名古屋大学大学院医学系研究科 手の外科）

66. 阻血再還流障害による重度廃用拘縮肢CRPSに対する生体内再生治療

演者：稲田 有史（稲田病院 整形外科）

67. 中手骨骨折後に発症したCRPS TypeIIに対し人工神経で治療した1例

演者：鈴木 修身（広島大学 整形外科）

2012年8月31日(金)

ポスターセッション 1「GBS/Fisher」

15:30~16:20 交流ホール

座長：海田 賢一（防衛医科大学校内科 3 神経内科）

- P01. 軟口蓋麻痺で発症したFisher症候群の一例
 演者：柚木 太淳（岡山大学病院 神経内科）
- P02. 臨床的に咽頭頸部上腕型で発症し四肢の筋力低下へ進展し、抗GD1a/GD1b複合体抗体が陽性であったGBSの1例
 演者：野本 信篤（東邦大学医療センター大橋病院）
- P03. 肺小細胞癌に合併した傍腫瘍性Guillain-Barré症候群の一例
 演者：中奥由里子（京都大学 医学部 神経内科、大津赤十字病院 神経内科）
- P04. 四肢脱力と排尿障害で発症したGuillain-Barre症候群（GBS）66歳男性例
 演者：王子 聡（埼玉医科大学 総合医療センター 神経内科）
- P05. 再発性Guillain-Barré syndrome / Miller Fisher syndromeの2例
 演者：小阪 崇幸（国立病院機構 熊本医療センター 神経内科）
- P06. Campylobacter jejuni腸炎後抗ガングリオシド抗体陽性の「脱髄型」Guillain-Barre症候群
 演者：国分 則人（獨協医科大学 神経内科）
- P07. 感覚神経で肘部伝導ブロックを呈した「AMAN型」Guillain-Barré症候群の25歳男性例
 演者：永島 隆秀（獨協医科大学 神経内科）
- P08. Guillain-Barre症候群様の発症を呈した抗ガングリオシド抗体陽性chronic motor axonal neuropathyの1症例
 演者：大成 圭子（産業医科大学 医学部 神経内科）
- P09. 発症25日後に施行した免疫グロブリン大量静注療法が有効であったギラン・バレー症候群の一例
 演者：高野 大樹（秋田県立脳血管研究センター 神経内科学研究部）
- P10. T細胞リンパ腫に合併し、副腎皮質ステロイドが著効したギラン・バレー症候群の1例
 演者：瀧田 亘（愛知県厚生連豊田厚生病院 神経内科）

ポスターセッション 2「CIDP・その他の脱髄性または炎症性ニューロパチー」 15:30~16:20 交流ホール

座長：長谷川 修（横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合診療科）

- P11. 両側声帯麻痺を合併しacute-onset CIDPと診断した1例
 演者：花岡 拓哉（大分大学 医学部 総合内科学第三講座）

- P12. CIDP発症8年でIgG- κ 型M蛋白血症を認め、発症10年で著明な神経肥厚による脊髄圧迫を認めた44歳男性
 演者：三井 隆男（埼玉医科大学総合医療センター 神経内科）
- P13. CIDPの電気診断における遠位CMAP持続時間：低周波フィルターの影響
 演者：磯瀬沙希里（千葉大学大学院医学研究院 神経内科、国立病院機構 千葉東病院 神経内科、首都圏神経筋電気診断フォーラム）
- P14. 当科で診断したCIDP亜型の臨床的特徴と治療予後
 演者：中尾 紘一（自治医科大学 医学部 神経内科）
- P15. 再発時の大量免疫グロブリン療法施行時にアナフィラキシーショックをきたした慢性炎症性脱髄性多発神経炎の1例
 演者：長山 成美（金沢医科大学 神経内科）
- P16. 免疫療法に軽度改善を示しながら、約40年の経過で四肢脱力・感覚障害が進行した脱髄性ニューロパチーの一部検例
 演者：豊岡 圭子（国立病院機構 刀根山病院 神経内科）
- P17. 同種骨髄移植後に発症した急性炎症性脱髄性多発神経炎の一例
 演者：吉田 智子（名古屋市立大学 神経内科）
- P18. 進行性の四肢脱力、呼吸不全を呈した抗ミエリン関連糖タンパク抗体に伴う脱髄性ニューロパチーの1例
 演者：結城奈津子（NHO 舞鶴医療センター 神経内科）
- P19. 左側の末梢性第VII・XII脳神経麻痺と上下肢麻痺・感覚障害を繰り返している若年男性の1例
 演者：安本 明弘（愛知医科大学 神経内科）
- P20. 自律神経障害を合併した失調性ニューロパチーの1例
 演者：大山 健（名古屋大学 医学部 神経内科）

■ ポスターセッション 3「その他のニューロパチー」

15:30~16:15 交流ホール

座長：熊本 俊秀（大分大学医学部総合内科学第三講座）

- P21. Polyneuropathyを合併した完全型Heerfordt症候群の1例
 演者：濱田 征宏（近畿大学 医学部 神経内科）
- P22. 多発脳神経障害を呈し、亜急性に進行したサルコイドニューロパチーの1例
 演者：池田 昇平（JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 神経内科）
- P23. シェーグレン症候群を合併した神経サルコイドーシスの1例
 演者：岡崎 真央（近畿大学 医学部 附属病院 神経内科）
- P24. 両側の視力障害で発症し、Wernicke脳症と、一過性の多発ニューロパチー増悪を来した神経線維腫症の1例
 演者：岩城 寛尚（愛媛大学 医学部附属病院 薬物療法・神経内科）

P25. 初発症状が片側下肢萎縮で始まった神経線維腫症2型の一例

演者：出口健太郎（岡山大学 医学部 神経内科）

P26. 左下肢の異常感覚で発症した悪性リンパ腫の一例

演者：辻井 智明（愛媛大学医学部附属病院 薬物療法・神経内科）

P27. ステロイドが著効した抗VGKC抗体陰性のCramp-fasciculation syndromeと考えられた一例

演者：芦田 真士（京都府立医科大学 神経内科）

P28. 多巣性分布の感覚障害を腓腹神経組織細胞内に多数の脂肪沈着を認めた2例の臨床・病理学的検討

演者：清水 潤（東京大学医学部附属病院 神経内科）

P29. 上肢のZoster paresisを来し、集学的治療が奏功した1例

演者：大山 彦光（順天堂大学 脳神経内科）

ポスターセッション 4「遺伝性・中毒性ニューロパチー」 15:30~16:20 交流ホール

座長：馬場 正之（青森県立中央病院神経内科）

P30. 免疫性脱髄性ニューロパチーの発症を契機にCMT1Aと判明した91歳高齢者例

演者：白河 俊一（川崎医科大学 医学部 神経内科）

P31. Charcot-Marie-Tooth disease 4Fの成人発症の3例

演者：徳永 章子（鹿児島大学 医歯学総合研究科 神経内科・老年病学）

P32. Mitofusin 2遺伝子（MFN2）異常によるCharcot-Marie-Tooth病2A型の1家系

演者：渡邊 将平（兵庫医科大学 内科学（神経・脳卒中科））

P33. Myelin protein zeroの新規点変異を認めた高齢発症Charcot-Marie-Tooth病の1例

演者：西山 修平（東北大学 医学部 神経内科）

P34. 上肢の筋力低下から発症したCharcot-Marie-Tooth病症例

演者：千葉 隆司（帝京大学医学部附属病院神経内科）

P35. シャルコー・マリー・トゥース病（CMT）患者を対象とした自己記入式アンケート調査結果

演者：滋賀 健介（京都府立医科大学 神経内科）

P36. PMP22 遺伝子に新しい点変異を有するDejerine-Sottas病の一例

演者：竹下 暁子（東京女子医科大学 医学部 小児科）

P37. 末梢神経障害と自律神経障害を主徴とする世界初のプリオン病遺伝子変異症例

演者：松蘭 構佑（岡山大学 神経内科）

P38. 有機リン農薬中毒による多発神経障害の筋電図所見より考察した障害部位

演者：本永 英治（沖縄県立宮古病院 リハビリテーション科 内科）

P39. スモン患者の現況と問題点—関東・甲越地区スモン検診から—

演者：江橋 桃子（日本大学 医学部 内科学系神経内科学分野）

■ ポスターセッション 5「腕神経叢・疼痛治療」

15:30～15:55 交流ホール

座長：額田 均（公益財団法人額田医学生物学研究所、オタゴ大学）

P40. 免疫グロブリン大量静注療法が有効であった純粋感覚型糖尿病性腕神経叢障害の2例

演者：喜多也寸志（兵庫県立姫路循環器病センター 神経内科）

P41. 撓骨神経麻痺が前景に立ち、4枝の神経障害を認めたNeuralgic amyotrophyの一例

演者：坪井 博文（東北大学 神経内科）

P42. 腕神経叢炎様症状で発症した複合性局所疼痛症候群（Complex regional pain syndrome: CRPS）3例

演者：永松清志郎（信州大学 医学部 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

P43. プレガバリン投与がしびれ感の改善に有効だった抗セントロメア抗体陽性末梢神経障害の2症例

演者：北薊 久雄（東邦大学医療センター大橋病院 神経内科）

P44. 反復経頭蓋磁気刺激による神経障害性疼痛治療：坐骨神経結紮マウスでの基礎研究

演者：由比 友顕（産業医科大学 医学部 神経内科）

■ ポスターセッション 6「病態モデル」

15:55～16:20 交流ホール

座長：三上 容司（横浜労災病院 整形外科）

P45. 末梢神経発生におけるヘパラン硫酸の役割: Exostosis 1 (EXT1) コンディショナルノックアウトシステムを用いた検討

演者：松本 嘉寛（九州大学 医学研究院 整形外科）

P46. 未分化Schwann細胞は虚血性末梢神経障害における再髄鞘形成に関与する

演者：小林 正樹（東京医科歯科大学 神経内科、中野総合病院 神経内科）

P47. 末梢神経の再生医療—生体吸収性人工神経を用いたiPS cell-& bFGF drug-delivery systemの有効性—

演者：上村 卓也（大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学）

P48. 末梢神経再生における脳由来神経栄養因子の役割

演者：竹村 宜記（滋賀医科大学整形外科学講座）

P49. 活イカを用いたin vivo 巨大軸索実験法の開発

演者：成島 三長（東京大学医学部附属病院形成外科）

ポスターセッション 7「外科手術・腫瘍」

15:30~16:10 交流ホール

座長：金谷 文則（琉球大学大学院医学研究科整形外科学講座）

- P50. 手根管症候群における3T-MRIを用いた正中神経断面積と重症度の検討
 演者：池田 幹則（大阪市立大学大学院医学研究科整形外科学）
- P51. 手根管症候群症例におけるdouble crush syndromeの可能性について
 演者：澁谷 亮一（協立病院 整形外科）
- P52. 重度手根管症候群に対する環指浅指屈筋腱を用いた小皮切母指対立再建術の経験
 演者：岡田 貴充（九州大学 医学部 整形外科）
- P53. 脂肪腫による後骨間神経麻痺の1例
 演者：関 康弘（亀田総合病院 整形外科）
- P54. 伴走静脈奇形により発症した肘部管症候群の一例
 演者：藤原 達司（大阪府立急性期総合医療センター 整形外科）
- P55. 頸肋に起始した小斜角筋により胸郭出口症候群を呈した1例
 演者：原 友紀（筑波大学医学医療系整形外科）
- P56. 指神経発生の神経内粘液性嚢腫の1例
 演者：弓削 英彦（九州大学 整形外科）
- P57. 聴神経腫瘍を伴わない多発性脊髄神経鞘腫の臨床的特徴について
 演者：播広谷勝三（九州大学 整形外科）

コメディカル・レジデントセッション

15:30~15:55 交流ホール

座長：柿木 良介（京都大学医学部リハビリテーション部）

- CR-1. 感覚神経伝導速度を用いた球脊髄性筋萎縮症と筋萎縮性側索硬化症の鑑別
 演者：後藤 沙絵（名古屋大学大学院医学系研究科 検査技術科学講座）
- CR-2. パーキンソン病患者における痛覚関連電位
 演者：岡田 有以（名古屋大学大学院医学系研究科 検査技術科学講座）
- CR-3. 正中感覚神経伝導検査で3指同時刺激あるいは記録の有用性
 演者：花田 守（阿久根市民病院 検査科）
- CR-4. 正中神経末梢神経伝導速度において著明な潜時延長を認めた一例
 演者：榊原久美子（名古屋大学附属病院）
- CR-5. 抗癌剤による末梢神経障害に対するメチルコバラミン大量療法の効果
 演者：久保田茂希（筑波大学大学院 医学医療系 整形外科）